

浜頓別研修会の報告

日本白鳥の会北海道支部

芳賀孝行

日本白鳥の会北海道支部が催した、浜頓別研修会、見学会は4月25日、26日に北海道浜頓別町で開催した。研修会は町営北オホーツク荘で開られ、日本白鳥の会北海道支部長、松井繁氏が開会のあいさつをし、来賓の浜頓別町長、石田孝氏が遠来の参加者ねぎらいの言葉と、ハクチョウを保護し、人間と自然が共存共栄できるようにご協力くださいとあいさつがあった。宗谷支庁自然保護係長、若林氏は自治体としても充分なる自然保護対策を行うように努力するとあいさつがあり、浜頓別町民課長、近藤恭右氏による浜頓別町の観光と自然保護についての講演と、70才の高齢とは思われぬお元気で参加したローゼ・レッサさんの特別講演があり、そのなかで、自然保護の原点は緑なす樹木である。木を大切にすることによって動物も人間も心豊かに育つ、緑を大切に、木を植えようと訴えていた。

ハクチョウの食道閉塞死に対する意見が、盛岡の沢田ゆきの、水戸の菊地和史、帯広の藤巻裕蔵、松井繁、地元の山内昇の各氏から出されとても有意義な研修会であった。懇談会には、日本白鳥の会理事、山内昇氏による北オホーツクの野生動物についての講演とスライド上映がありました。コハクチョウ、クロエゾテン、アカゲラ、フクロウ等、それらの写真は動物の表情をよくとらえており、会場のあちこちで感嘆の声が聞かれた。翌日、早朝5時にクッチャロ湖河畔で田辺信一氏、

山内氏による給餌を見学した。そのコハクチョウの群れのなかには、アメリカコハクチョウ、標識鳥を確認した。さらに浜頓別町のご好意によるバスでポロ沼には5,300羽ものコハクチョウを確認した。その景観には全員が信じられないと言ったふうに双眼鏡、望遠鏡をのぞき羽数をかぞえていたが、余りの多さにかぞえることを途中でやめた人が多かった。わが国では5千羽以上のコハクチョウが飛来していることを知る人は皆無に等しい、しかし、この多数のコハクチョウを見て、将来もこのように多数のハクチョウが飛来するように良い環境を守り、観察することが私達の使命と考える。最後に、この催しにご協力下さいました、浜頓別町長、石田孝氏、北オホーツク荘支配人、高橋忠重氏、近藤恭右氏、山内昇氏、田辺信一氏をはじめ多くの皆様に深く感謝申し上げます。



A report on the meeting of The Swan Society of Japan, Hamatonbetsu.

Takayuki Haga

In 25. -26. April 1981, we had a meeting of The Swan Society of Japan at Hamaronbersu in Hokkaido. 28 peopel came from the whole country. After an opening address, many man gave opinions on the death of the swan from oesophagus blockade. Mr. Yamauchi spoke on the wildlife of North Okhostk and showed many slides.

Next day, we saw Bewick Swans fed by Mr. Tanabe and Mr. Yamauchi at Lake Kutcharo. And we could count 5300 number of Bewick Swans at Lake Poro. This is the only place that we can watch a great number of swans in Japan. We wish to protect good environment that a number of swans can come flying here forever.